

# まちひとしごと

Vol. 32

倶知安厚生病院総合診療科  
主任医長 木佐 健悟 さん



## 一人一人と向き合い この町に合った医療の提供を

### 私

「私たち倶知安町民にとって身近な存在でありながら、羊蹄山麓における医療の中心的な役割も果たす倶知安厚生病院。同院の総合診療科で主任医長を務める木佐健悟さんは、幼少期から高校卒業までを恵庭市で過ごした。全国にある全ての駅を踏破してしまふほど鉄道を愛してやまないという木佐さんは、高校生の頃から各地を旅する中で、駅のある町を観光することだけではなく、地域が抱える問題や課題を実際に目で見えて感じられることにも大きく興味を持った。

「高校の授業をきつかけに、生

き物に興味を持ったことから、医学部への進学を決めました。中でも、地域が抱える社会的な問題と関わりながら、幅広く診ることが出来る総合診療科医が自分には合っていると感じました」

大学卒業後は、帯広の総合病院などを経て、7年ほど前から倶知安厚生病院の総合診療科医として勤務している。

総合診療科は、病状によらず、『何科にかかればよいのかかわらない』という患者も一旦受け入れ、それぞれに適した処置や対応を幅広く行うという特性がある。そこでは、地域や社会との関わりの中で病気を治していくことが大切だと木佐さんは話す。

「例えば一人暮らしのお年寄りなら、いざという時に自分で救急車を呼ぶことは難しく、また、家族と暮らす方なら、できる限り自宅で過ごしたいと考える人もいます。患者さんの周囲の環境などを考慮し、その方の希望に合わせた診察・治療を行うよう心がけています」

総合病院では、各専門科の医師が必要数揃うことが望ましいが、町の規模によってはそれが難しい。私たちの町には、総合診療科

のように一般的な病状に幅広く対応できる医師を多く在籍させることが適しているのだという。

そのような中、倶知安厚生病院の総合診療科医は比較的多く、若手からベテランまで11名が在籍しており、その多くは、倶知安やこの地域を好み、希望してここで勤務しているそうだ。

「近年、増えている若い医師たちが病院にとっての活力になっていきます。外国人患者の増加などにより、この病院に求められる医療の幅が広がっていく中、地域の方々の協力を得ながら、この町に合った医師を現場で育て、医療体制を維持していくことが私の役目だと思っていますし、それがやりがいです」

個々に成長した医師がこの地に定着することは、安定した医療体制の確立につながり、それが私たちの暮らしの安心へとつながる。誰もが暮らしやすい町。医療の現場と行政がそれぞれの役割を果たしながら、関わり合っていくことが、それを目指す近道なのかもしれない。

※まちひとしごとは不定期連載です